



通常訪問研修を終えて 立山北部小学校

研修主題 : 「読み解く力」を伸ばし、主体的に学び続ける子供の育成

今年度は、一人一人が「読み解く力」を確実に身に付け、その力を伸ばすことで、自分の考えに自信をもち、主体的に学び続けると考え、研修を進めています。通常訪問研修では、子供の躓きを想定し、その支援を考えて授業改善を図った結果、次のような成果と課題が明らかになりました。

【成果と課題】

- 2年算数科では、提示された形を三角形と四角形に分類する際、三角形にも見える四角形をどの仲間に入れたらよいか迷っていた児童を全体指導の場で取り上げたことにより、前時に学習した三角形の定義につなげて考えることができた。さらに「なぜ迷ったのか」をもっと語らせることができれば、より定義を掘り下げて考えるきっかけとなった。
- 5年体育科では、グループで撮り合った動画を確認することで、ゴムバーに当たる要因を視覚的に捉え、自分の課題を意識して練習に取り組む姿につなげることができた。課題に応じ「選択」「自己決定」できる練習の場がもっと工夫されていると、さらに主体的な学習の姿につながる。
- 知的障害特別支援学級の自立活動では、児童の困っている様子に合わせ、教師が丁寧に声をかけていた。また、うまくできたときの誉め言葉が、児童の自信にもつながっていた。その一方、児童の困難さの原因をもっとよく捉えることが大事である。例えば、バランスよく字が書けない原因が文字の形を捉えないからなのか、筆記用具に問題があるのか、それとも意欲がないからなのか、原因によって支援の仕方が変わってくる。



【今後の研修に向けて】

- 躓きを想定しておくことで、授業の中で困っている児童を捉え、全体で取り上げたり、その児童に合った支援をしたりすることにつながった。その一方、どんなに想定していても、躓いた児童を適切に取り上げることができなかつたり、その躓きに合った手立てが不十分だつたりする場合がある。また、教師の想定を超えた躓きをする児童もいる。今後も研究を重ね、様々な躓きに対応した手立ての実践を積み重ねていきたい。

文責 教務主任 大島 孝明

